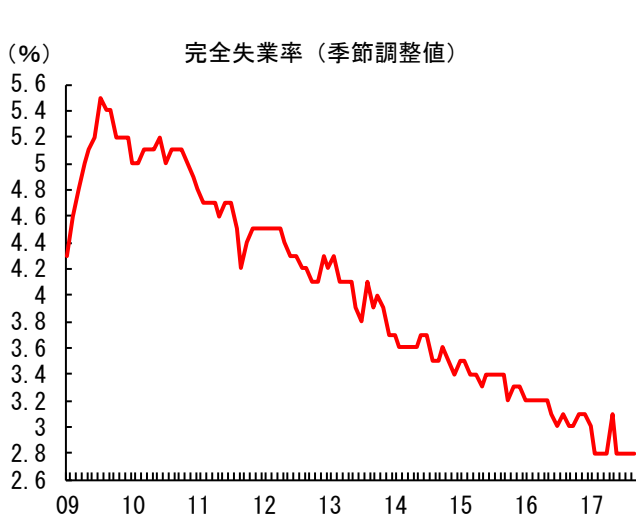


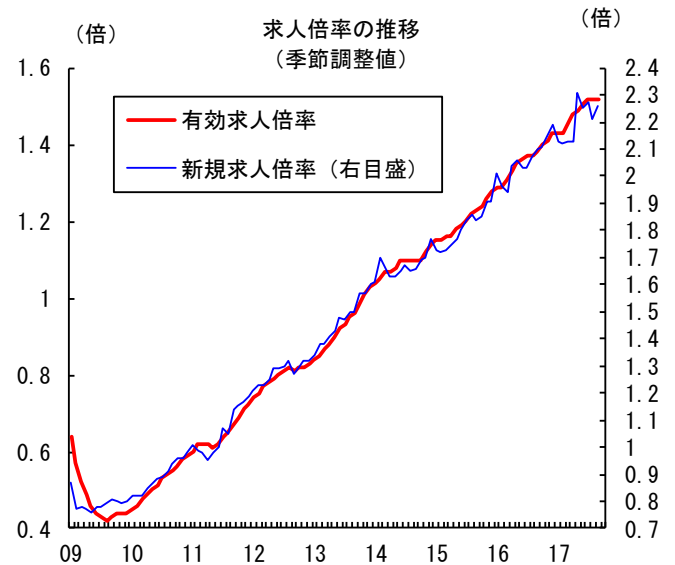
テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2017年9月） 発表日：2017年10月31日（火）
 ～正社員の有効求人倍率が4ヶ月連続で1倍超え～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528



(出所)総務省統計局「労働力調査」

(注)2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



(出所)厚生労働省「一般職業紹介状況」

○雇用情勢の改善続く

総務省から発表された2017年9月の完全失業率は2.8%と、市場予想に一致した。これで4ヶ月連続で2.8%、17年に入ってからの9ヶ月のうち7ヶ月で2.8%となっており、2%の失業率が定着している。2.8%という水準は、バブル初期の1987年や、バブル崩壊後に失業率が上昇を始めて間もない1994年とほぼ同じであり、労働需給が非常に引き締まった状態にあることが確認できる結果である。

なお、季節調整済みの就業者数は前月差▲15万人（8月+20万人）、雇用者数も前月差▲11万人（8月+4万人）と減少しているが、これまで急ピッチで増加した反動に過ぎない。7-9月期平均でみると就業者数は前期比+0.4%（4-6月期：+0.5%）、雇用者数は前期比+0.7%（4-6月期：+0.4%）と速いペースで増加しており、引き続き雇用は着実な改善傾向にあると判断できる。

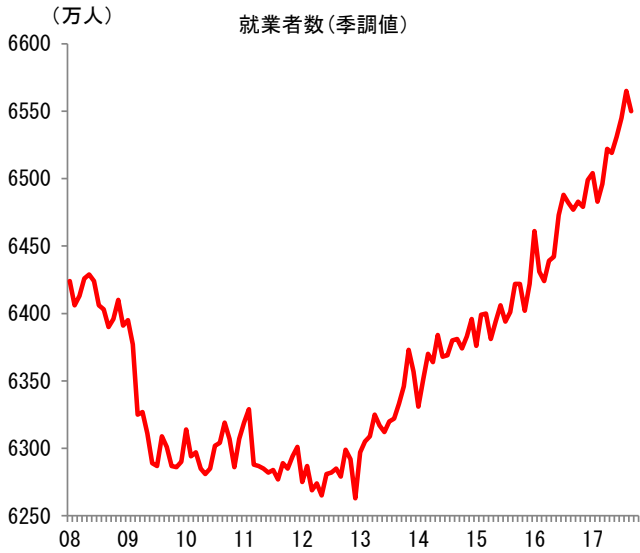
○正社員の有効求人倍率は4ヶ月連続で1倍超え

厚生労働省から公表された17年9月の有効求人倍率は1.52倍と、前月と同水準となった。バブル期のピークである90年7月の1.46倍を6ヶ月連続で上回り、1974年2月（1.53倍）以来の高水準となっている。また、新規求人倍率は2.26倍と、前月（2.21倍）から0.05ポイントの上昇となった。季節調整の影響からか、新規求職申込件数が5月以降大きく振れていることの影響で、新規求人倍率もこのところ月々アップダウンを繰り返しているが、均してみると改善傾向にあることは変わらない。労働需給が非常に引き締まっていることを示す結果といえる。

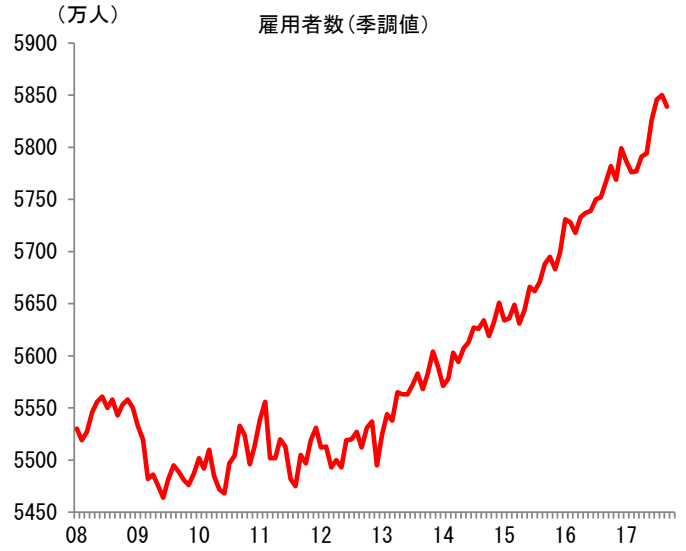
また、正社員の有効求人倍率は1.02倍と、前月から0.01ポイント上昇し、2004年11月の集計開始以来の最高水準を更新した。これで4ヶ月連続の1倍超え。また、正社員の新規求人倍率も1.49倍と前月から0.06ポイント上昇し、着実な改善が続いている。正社員についても徐々に改善の動きがみられていることは明かい

材料だ。

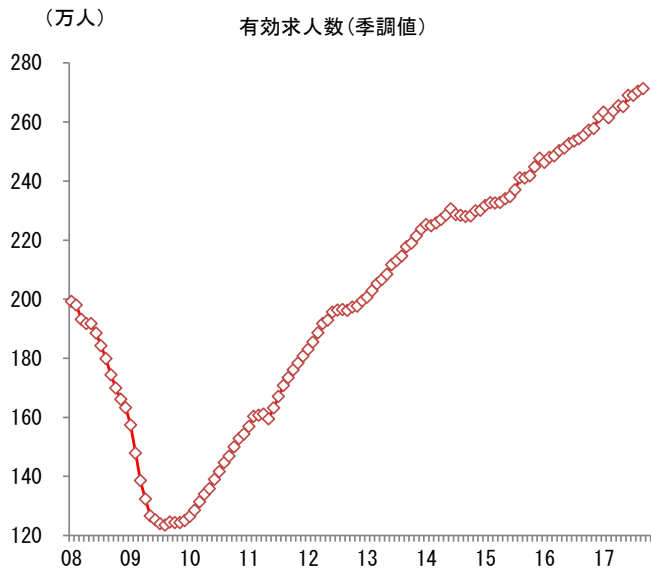
そのほか、有効求人数は前月比+0.3%、新規求人数は前月比▲0.9%となった。新規求人数は小幅減少したが、前月に大きく増加（前月比+2.9%）した反動の面が大きい。引き続き、求人は明確な増加傾向にあり、企業の求人意欲が旺盛であることが確認できる。雇用者数の動きに先行する求人数が改善傾向を続けていることからみて、先行きも雇用情勢は堅調さを持続するとみられる。失業率も2%台での推移が続く可能性が高い。



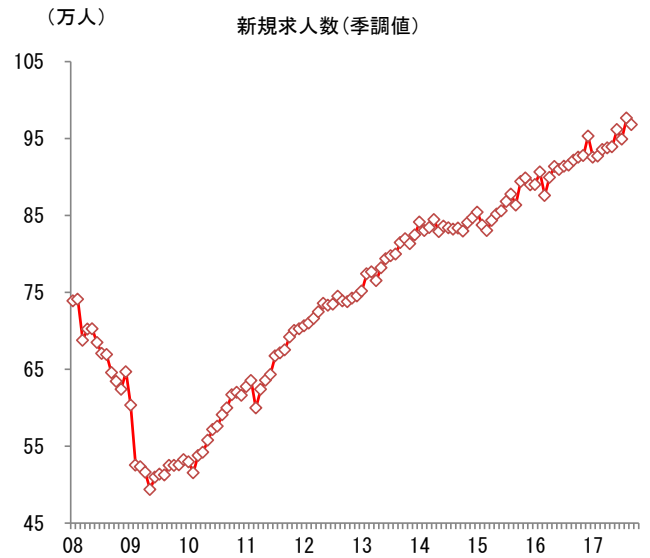
(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」